

総合型選抜入学試験

<2026年度 総合型選抜入学試験 藤女子大学ウェルビーイング学部 子ども教育学科 事前レポート課題>

文部科学省が進める取り組みの一つである「幼保小の架け橋プログラム」とはどのようなものか。北海道教育庁幼児教育推進センターが示している「北海道版幼児教育スタートプログラム」を参考にし、その内容をまとめた上で、現状や課題について説明②しなさい。

また、あなたが将来、教育者・保育者になったと仮定し、幼保小架け橋プログラムを始めるために、どのようなことを実践したいですか？具体的に記述③しなさい。(2000字程度)

●課題作成に関するステップと留意点●

<はじめに>

問題文の中に、課題レポートに含めることが必要な内容が示されているので、まずはどのような内容を求められているのかについて把握する。上記課題では、下線①②③の3点についての記述が求められていることがわかる。

下線①→「幼保小の架け橋プログラム」とはどのようなものか、「北海道版幼児教育スタートプログラム」を参考にその内容をまとめる。

下線②→「幼保小架け橋プログラム」の現状と課題について説明する。

下線③→自分が教育者・保育者になったと仮定した場合、「幼保小架け橋プログラム」を始めるための実践内容について具体的に記述する。

<作成のステップと留意点>

1. 「幼保小の架け橋プログラム」とはどのようなものか、「北海道版幼児教育スタートプログラム」を参考にその内容をまとめる。まとめる際には、「北海道版幼児教育スタートプログラム」以外の資料を参考にしてもよいが、「北海道版幼児教育スタートプログラム」に全く触れてない場合は、点数とならない。

→「北海道版幼児教育スタートプログラム」そのものを熟読し、理解した上で内容を説明する。

2. 「現状や課題」については、「北海道版幼児教育スタートプログラム」のみならず、他の情報源からの情報も集めて理解し、記述する。(目安字数1と2をあわせて1000字～1200字)

留意点1：この部分は事実を述べる箇所なので自分の意見は入れないこと。

留意点2：調べたことをただ羅列するのではなく、調べたことをまとめ、どの順番で記述すると読み手にうまく伝わるかを意識して文章を作成すること。

※HPの情報のみではなく、書籍や新聞記事などの媒体からの情報も入れることが望ましい。

※HPから情報を得る場合、信頼できるサイトであるかを確かめてから使用すること。

●解答サンプル

文部科学省によると、幼保小の架け橋プログラムとは、子どもに関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間）にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指すものである、とされている。令和4年度から令和6年度にかけて、モデル地域（えりも町・佐呂間町）での実践事例を元に、「北海道版幼児教育スタートプログラム」が策定された。

「北海道版幼児教育スタートプログラム」には、幼保小の架け橋プログラムの基本や取組の進め方に加えて、えりも町や佐呂間町における調査研究の成果などが紹介されている。具体的な成果報告資料（資料名：幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業 成果報告会）では、まず、教育委員会が主導し、連携・協働体制を構築した取組や架け橋期のコーディネーターを配置した取組が紹介されている。また、幼児教育と小学校教育への理解を深めることを目的とした保育及び授業参観や幼保小合同研修会の取り組みが紹介されている。

本プログラムの課題として、「体制づくり」と「カリキュラム作成」の2点について触れられている。「体制づくり」では、担当となる一部の先生の負担が大きくなってしまったり、一時期のみの取り組みになってしまったりすることがあるため、園長・校長の連携とリーダーシップのもとで、連携窓口を明確化させたり、自園・自校での意識啓発を行ったりする等、園内・校内のすべての先生でプログラムの意義やねらいを共有することが重要であるとされている。また、「カリキュラム作成」では、幼稚園・保育園等の幼児教育施設と小学校の先生が互いの教育を理解し、「共通の視点」「期待する子ども像」「遊びや学びのプロセス」「先生の関わり」「環境づくり」「子どもの交流」「家庭や地域との連携・協働」を検討することが重要だとされている。その上で、カリキュラム作成後、幼児期及び架け橋期の教育の充実に向けた継続的なPDCAサイクルの構築が課題だといわれている。

同様に、東京大学の野澤祥子氏が都道府県や市町村等の自治体担当者を対象に行ったアンケート調査（幼保小の架け橋プログラムのモデル地域における成果に係る調査研究【結果の概要】）によると、架け橋期の教育における課題として、都道府県では「園と小学校の間の温度差」が80.0%と最も多く、市町村では「幼保小の先生の連携に向けた準備時間の確保（先生の多忙）」が76.8%と最も多くなっていることも報告されている。（1049文字）

参考文献等

- ・ 「幼保小架け橋プログラム」文部科学省
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019_00002.htm
(2025年〇月〇日閲覧)
- ・ 幼保小の架け橋プログラムのモデル地域における成果に係る調査研究【結果の概要】
https://www.mext.go.jp/content/20250225-mxt_youji-000023526-2.pdf
(2025年〇月〇日閲覧)
- ・ 北海道教育庁学校教育局義務教育課 幼児教育推進センター 幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業 成果報告会
https://www.mext.go.jp/content/20250225-mxt_youji-000023526-3.pdf
(2025年〇月〇日閲覧)
- ・ 「北海道版幼児教育スタートプログラム～つながろう つなげよう 子どもの学びと育ち～」
北海道教育委員会

<https://www.dokyoι.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/yousyouseituzoku.html>

(2025年〇月〇日閲覧)

3. 自分が教育者・保育者になったと仮定した場合、「幼保小架け橋プログラム」を始めるために行いたい実践内容について具体的に記述する。(目安文字数 800～1000字)

留意点1：すでに行われている事例を参考に記述しても良いが、事例をそのまま用いるのではなく、自分であれば、どのような実践がしたいか、自分の考えを示すこと。

留意点2：上記で挙げた「課題」が残るような実践ではなく、課題が克服されるような実践を考えて記すと良い。

4. 参考文献を記す(課題である2000字の文字数には含まない)

①書籍の場合…「著者名」「著書名」「出版社名」「出版年」を記す。

例) 甲斐田万智子監修「きみがきみらしく生きるための子どもの権利」KADOKAWA 2023

②新聞記事の場合…「新聞名」「記事名」「掲載年月日」を記す。

例) 朝日新聞 「幸せに育っていける社会へ こども家庭庁が発足」2023年4月6日

③Web ページの場合…「Web ページのタイトル」「発信元」「URL」「閲覧日」

例) 「北海道版幼児教育スタートプログラム～つながろう つなげよう 子どもの学びと育ち～」
北海道教育委員会

<https://www.dokyoι.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/yousyouseituzoku.html> 2025年9月7日閲覧

※HPの発信元がわかるように記述すること。例) の場合、「北海道教育委員会」がそれにあたる。

※参考文献の記載に漏れがある場合は、減点の対象となる。